

生徒の確かな学力の向上と授業改善の推進

研究の仮説

単元において、話し合いや発表の場を適切に設定すると、生徒の学習への主体性、意欲が高まり、理解が深まる

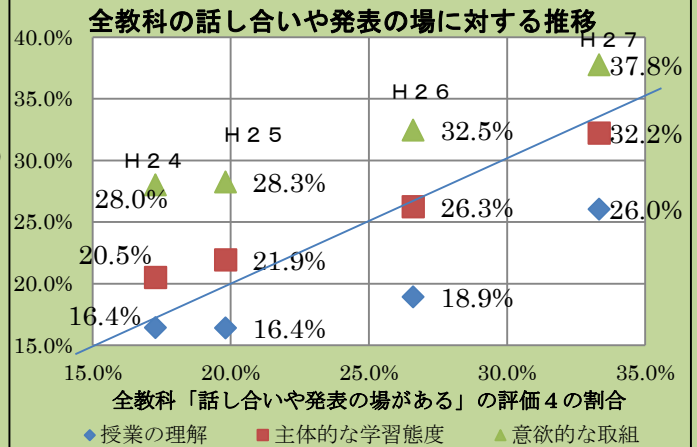
具体的なたてだて

- 各教科での単元研究・実践
- 年間2回の研究授業
- 年1回の公開研究授業と研究協議
- 授業づくりに係る研修会
- 互見の強化週間

今後の課題

生徒の特長を生かし、理解を深め、思考力・表現力を育成する授業づくり

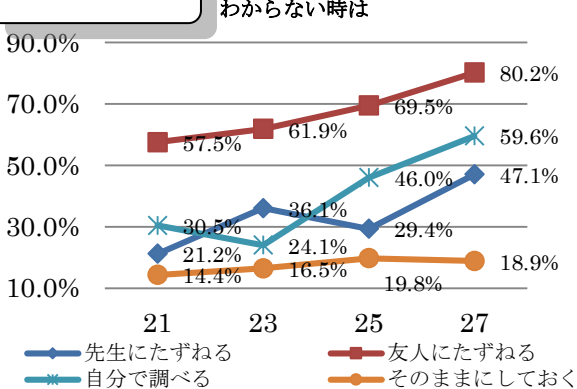
生徒による授業評価



今後の研究

- これまでの単元研究を土台とした研究実践の加速（スウィングバイ）
- ディスカッションや発表など、生徒のアクティブラーニングを重んじた研究実践

生徒の変容



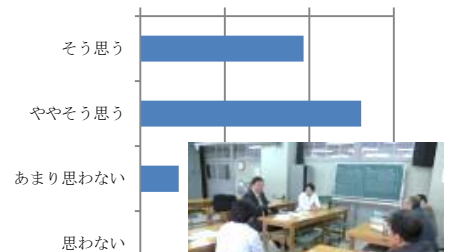
生徒による説明(書面が)



実験・考察

教員の変容

校内授業で授業が変わった



研究協議

研究の具体例

数学科の研究授業
(数学Ⅱ 図形と式)
単元：円の接線
身につけたい力
：円と接線について多面的に見ることができる。

「外部の点から円に引いた接線を求める」ことは、この単元で核になるところと判断し、ここで、グループによる共同研究、発表という言語活動を取り入れた。

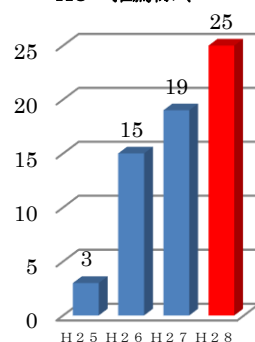
想定していた方法以外の方法の提案に驚き・・・

(生徒の感想)

- 問題の解き方を話し合ってみると、最初は初めてで、すごく頭を使った。
- 皆でひとつの問題をさまざまな方向から答えを導くのはとてもやりがいがありおもしろかった。
- 数学は考えることがおもしろいと感じた。

大学等合格実績

国公立・難関私大合格者数
AO・推薦除く



GMARCH合格者数
AO・推薦除く

